

## 第11課

❖❖ ピクニックをする ❖❖

### スキット

のぞみ, サイダ, ユキの3人が万博記念公園に到着しました—

Nozomi (N) : Haya, tumefika.

Kwanza tule cha mchana.

(Huku wakila chakula cha mchana —)

N : Hizi hapa ni *onigiri*.

Saida : Na hiyo karatasi nyeusi pia unakula ?

N : Hii ni *nori*, **inatengenezwa** kwa mwani wa baharini.

(Baada ya chakula)

N : Basi tucheze mpira.

(Mpira uliopigwa teke unaelekea Saida —)



のぞみ (N) : さあ, 着いた。

Saa, tsuita.

とりあえずお昼ご飯を食べよう。

Toriaezu ohirugohan wo tabeyou.

(お昼ご飯を食べながら—)

N : これがおにぎりだよ。

Kore ga onigiri da yo.

サイダ : それ, その黒い紙も食べるの?

Sore, sono kuroi kami mo taberu no ?

N : これはのりだよ, 海藻でできるんだよ。

Kore wa nori da yo, kaisou de dekirunda yo.

(お昼ご飯の後)

N : さあ, ボール遊びをしよう。

Saa, booru asobi wo shiyou.

(蹴られたボールがサイダに向かって—)

N : Saida, mpira huoo !

Yuki : Mtume !

N : サイダ, ボールいったよ !

Saida, booru itta yo !

ユキ : 危ない !

Abunai !



## 解 説

第11課では、次の項目について学びます。

- ◆ 動詞本体の仕組み
- ◆ 動詞本体のヒキノバシ(1)
  - ◇ ニ・デナス体
  - ◇ ナシアウ体
  - ◇ ナサレル体

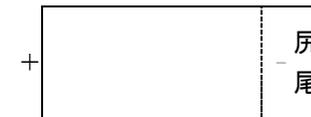


### ◆ 動詞本体の仕組み

まず、動詞本体の仕組みについて見ていきましょう。

**動詞本体**には、必ず**尻尾**が付いています。そして、動詞本体はこの尻尾が‘-a’のもの、‘-a’以外のもの、つまり‘-e’、‘-i’、‘-u’のものに大きく分かれます。尻尾が‘-o’の動詞本体はありません。

▽ 動詞本体



○ 尻尾が‘-a’の動詞本体



○ 尻尾が‘-a’以外の動詞本体





そして、尻尾の前には動詞本体の元の意味を少し変えるためのシルシが入ることがあります。



このシルシには種類が幾つかあって、例えば、'+ choma' 〈刺す〉という意味の動詞本体を、〈〜に刺す〉や〈〜で刺す〉という意味に変えるシルシがあったり、あるいは〈刺す〉とは裏がえしの意味となる〈抜く〉に変えるシルシがあったりします。

このように、シルシにより動詞本体の元の意味を変えることを、動詞本体のヒキノバシとここでは言います。

▽ '+ choma' 〈刺す〉のヒキノバシ

+ [choma]	〈刺す〉
+ [chom:e-a]	〈〜に刺す〉〈〜で刺す〉
+ [chom:ek-a]	〈刺せる〉〈刺せれる〉
+ [chom:esh-a]	〈刺さす〉〈刺させる〉
+ [chom:an-a]	〈刺し合う〉
+ [chom:w-a]	〈刺される〉
+ [chom:o-a]	〈抜く〉

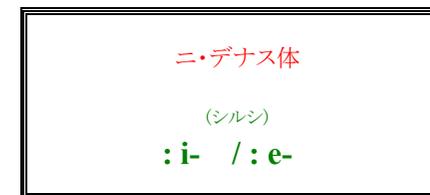
◆ 動詞本体のヒキノバシ(1)

この課では動詞本体のヒキノバシについて、まず、これら 3 種類のシルシを見ていきます。

: i-	: e-	(ニ・デナス体)
: an-		(ナシアウ体)
: w-		(ナサレル体)

◇ ニ・デナス体

まずは ':i-' と ':e-' のシルシからです。これらは例えば〈刺す〉を〈〜に刺す〉や〈〜で刺す〉に変える、いわば ニ・デナス体 のシルシです。「ニ・デナス」、つまり、これらは「〜に…する」、「〜で…する」という意味を持つシルシです。



これまでに見た課のスキットにも出ていました。これらがそうです。

N : Nataka **kumnunulia** rafiki yangu zawadi.  
〈友だちにプレゼントを買いだいたいよ。〉  
(第 4 課)

N : **Nimekuletea** sushi (...).  
〈(...) お寿司を持ってきたよ。〉  
(第 5 課)

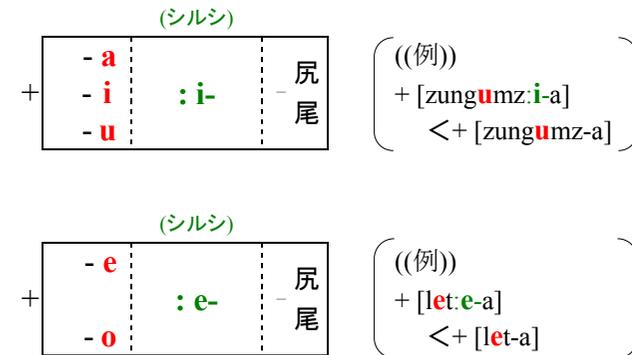
N : Juzi **tulizungumzia** mandari.  
〈この間、ピクニックの話したよ。〉  
(第 6 課)

いずれも動詞本体はこのようになっています。+ nunulia'で、シルシの'i-'に'1'が付いているのは、元の動詞本体'+ nunua'の尻尾の直前が母音になっているためです。

- + [nunu:**li**-a]     〈〜に買う〉     (+ [nunu-a] 〈買う〉)
- + [let:**e**-a]     〈〜に持ってくる〉     (+ [let-a] 〈持ってくる〉)
- + [zungumz:**i**-a]     〈〜について話す〉     (+ [zungumz-a] 〈話す〉)

シルシが'i-'になるか、'e-'になるかは、元の動詞本体の尻尾の前の母音で決まります。シルシが'i-'になるのは尻尾の前の母音が'-a-', '-i-', '-u-'の場合です。そして、シルシが'e-'になるのは尻尾の前の母音が'-e-', '-o-'の場合です。

▽ ニ・デナス体のシルシ



尻尾が'-a'以外の動詞本体では、ヒキノバシした後の尻尾を'-a'にしなければなりません。例えば'+ rudi'〈戻る〉は、動詞本体の尻尾が'-i'ですね。しかし、ニ・デナス体にヒキノバシした後では尻尾を'-a'にし、'+ rudia'とします。

+ [rud:**i**-a]     〈〜に戻る, 繰り返す〉



### ◇ ナシアウ体

続いては、‘:an-’のシルシです。これは例えば〈刺す〉を〈刺し合う〉に変える、いわばナシアウ体のシルシです。「ナシアウ」、つまり、これは「～しあう」という意味を持つシルシです。

ナシアウ体  
(シルシ)  
: an-

このナシアウ体もこれまでの課のスキットに出ていました。例えばこれらがそうです。

N : (…), **tufuatane** kwenda madukani ?  
〈(…), 一緒に買い物に行かない？〉

N : Basi **tukutane** hapo stesheni (…)?  
〈じゃあ、(…) 駅で待ち合わせでいい？〉

(ともに第4課)

いずれも動詞本体はこのようになっています。

+ [fuat:**an-a**] 〈連れ合う〉 (+ [fuat-a] 〈ついて行く〉)

+ [kut:**an-a**] 〈会う(見つけ合う)〉 (+ [kut-a] 〈見つける〉)

### ◇ ナサレル体

最後に、‘:w-’のシルシです。これは例えば〈刺す〉を〈刺される〉に変える、いわばナサレル体のシルシです。「ナサレル」、つまり、これは「～される」という意味を持つシルシです。

ナサレル体  
(シルシ)  
: w-

このナサレル体は、この課で見たスキットに出ていました。

N : Hii ni *nori*, **inatengenezwa** kwa mwani wa baharini.  
〈これはのりだよ、海藻でできるんだよ。〉

また、第1課の自己紹介の表現でも出ていました。

S : **Naitwa Saida.** 〈私はサイダと言います。〉

いずれも動詞本体はこのようになっています。

+ [tengenez:**w-a**] 〈作られる〉 (+ [tengenez-a] 〈作る〉)

+ [it:**w-a**] 〈呼ばれる〉 (+ [it-a] 〈呼ぶ〉)

このナサレル体を用いて「～によってナサレル」という文を作る場合、〈～によって〉は‘na’で表わします。また、「～でもってナサレル」という文を作る場合、〈～でもって〉は‘kwa’で表わします。‘kwa’の後には材料や道具が続きます。

動詞本体のヒキノバシの残りのシルシについては、第13課で見ましょう。

❖❖

○ 〈～によって〉

‘ na ~’

○ 〈～でもって〉

‘ kwa ~(材料・道具)’

またスワヒリ語では、例えば「頭が痛い」とか「汗が出た」と言う場合、このナサレル体を用いてこのような表現の仕方ができます。

((例1)) 「頭が痛い」

Kichwa kinaniuma. (頭が私を痛くする。)

Ninaumwa na kichwa. (私は頭によって痛くされる。)  
(‘kichwa’〈頭〉, ‘+ uma’〈痛くする〉)

((例2)) 「汗が出た」

Jasho limenitoka. (汗が私から出た。)

Nimetokwa na jasho. (私は汗によって出られた。)  
(‘jasho’〈汗〉, ‘+ toka’〈出る〉)

